

気候変動適応における広域アクションプラン策定事業 中部地域

# 令和3年度事業報告

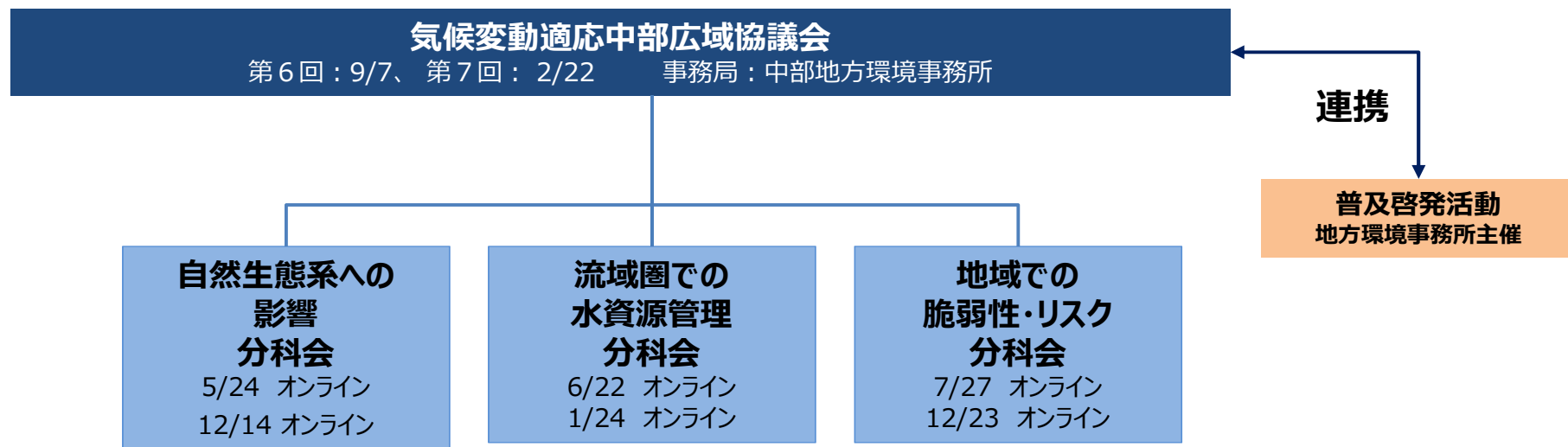
---

令和4年2月

中部地方環境事務所  
(日本エヌ・ユー・エス株式会社)

# 事業概要（令和3年度）①

## ◆ 気候変動適応中部広域協議会の運営・開催



### < 構成員 >

- ・都道府県、政令指定都市、その他市町村※
- ・地方農政局、地方整備局、地方運輸局、地方森林管理局、管区气象台等国の地方支分部局
- ・地域気候変動適応センター、研究機関、有識者
- ・地域地球温暖化防止活動推進センター※
- ・地域の気候変動適応に関係を有する事業者等※
- ・その他

※地域の状況により、必要に応じて参加

### < アドバイザー >

敬称略 五十音順 ※座長

氏名	所属
香坂 玲	名古屋大学大学院 環境学研究科 教授
杉山 範子	名古屋大学大学院 環境学研究科附属持続的共発展教育研究センター 特任准教授
高取 千佳	九州大学芸術工学研究院 准教授
中村 晋一郎	名古屋大学大学院 工学研究科 准教授
原田 守啓	岐阜大学 地域環境変動適応研究センター センター長・准教授
福井 弘道※	中部大学 中部高等学術研究所 所長・教授

## 事業概要（令和3年度）②

### ◆ 気候変動適応に関する普及啓発活動

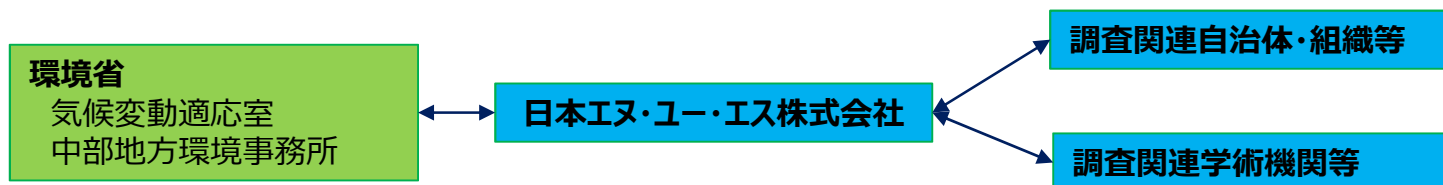
普及啓発活動は各分科会のテーマごとに行う。

- 自然生態系への影響分科会：一般市民を対象としたセミナー  
『セミ！セミ！セミナー』～夏休み前に、セミの見分け方を学んでみよう！！～（7月17日 実施済）
- 流域圏での水資源管理分科会：自治体職員および研究者等を対象とした連携強化のための研修会として「ランチタイムセミナー」（11月～2月 計8回程度実施予定）
- 地域での脆弱性・リスク分科会：市町村自治体職員等を対象とした適応計画策定促進のための研修会（2～3月 1回実施予定）

### 【令和3年度 スケジュール】

活動	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
広域協議会						9/7 第6回					2/22 第7回	
自然生態系への影響分科会		5/24 第1回							12/14 第2回			
流域圏での水資源管理分科会			6/22 第1回							1/24 第2回		
地域での脆弱性・リスク分科会				7/27 第1回					12/23 第2回			
普及啓発活動				7/17 自然生態系分科会				11-2月 水資源分科会				3/8 リスク分科会

### 【実施体制】



# 自然生態系への影響分科会

---

# 自然生態系への影響分科会 ① 事業概要

## テーマ：気候変動による自然環境・生物への影響への対策

「生物多様性国家戦略2012-2020」において、我が国の生物多様性に対する4つの危機の一つとして、気候変動を含めた地球環境の変化による危機があげられており、豊かな自然環境の喪失だけでなく、農林水産業や文化等にも多くの影響を与えることが危惧されている。自然生態系への気候変動影響について検討するため、これまで地方公共団体や研究機関、市民等が実施してきたモニタリングの調査結果データ等の整理・共有に加え、気候変動影響の観点からそれらのデータを分析・評価し、調査対象とする気候変動影響の絞り込みを行い、関係者の連携による自然環境・生物への影響に対するアクションプランの策定を目指す。

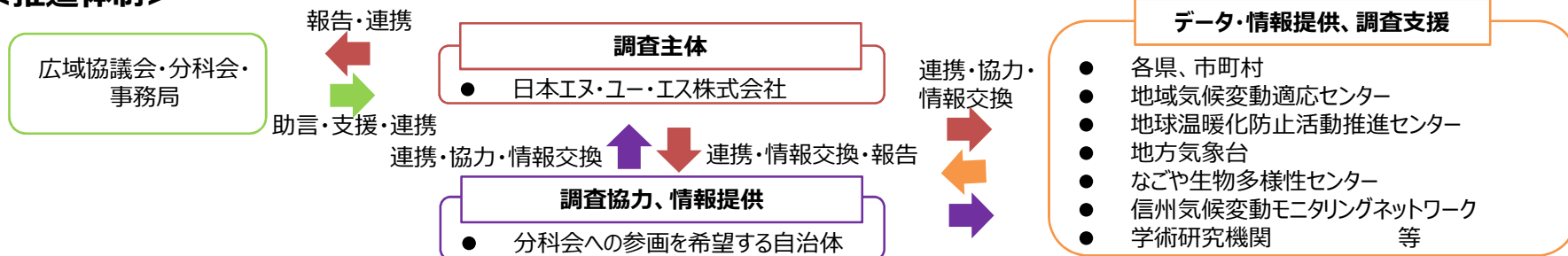
### <アドバイザー> ※敬称略

座長： 名古屋大学 教授 香坂 玲  
(生物多様性・  
農林業の自治体戦略・政策)  
副座長：九州大学 准教授 高取 千佳  
(景観生態学、都市計画)

### <有識者>

信州大学 助教 水谷 瑞希  
(森林生態学)

### <推進体制>



### <メンバー>

令和4年1月現在

種別	メンバー
地方公共団体	県：富山県、石川県、福井県、長野県、岐阜県、愛知県、三重県 政令指定都市：名古屋市 市町：珠洲市、岐阜市、岡崎市、豊田市、みよし市
地域気候変動適応センター	信州気候変動適応センター、岐阜県気候変動適応センター、愛知県気候変動適応センター、三重県気候変動適応センター
地方支分部局	東京管区气象台、関東農政局、北陸農政局、東海農政局
企業 ほか	愛知県地球温暖化防止活動推進センター

# 自然生態系への影響分科会 ② 令和3年度調査結果 (1)

## 気候変動による影響分析①



：ツキノワグマと堅果類に関連する分析

### 【仮説1】将来気候における霜（晩霜）の発生時期の変化がもたらすブナ、ミズナラ、コナラの晩霜害→着果不良→凶作化

- 仮説の根拠：気候変動と堅果類の結実・豊凶の関係には、定量的な予測が可能な知見はまだ少ないが、「堅果類の凶作年にツキノワグマが大量出沒すること」は知見として確立しており、凶作を招くイベントのひとつである「遅霜の発生」に注目した。
- 仮説へのアプローチ：長野県における果樹等の農作物の凍霜害データ（過去）および農環研データ（日統計値）を用いて、凍霜害が発生する気象条件の検討を行った。
- 結果：今回解析した日統計値のうち、凍霜害の発生確率に与える影響が大きい気象因子として、日最低気温と日平均風速が抽出されたが、十分な精度の予測モデルは構築できなかった。

## 気候変動による影響分析②



### 【仮説2】将来気候における、ブナ、ミズナラ、コナラの植生分布の変化→ツキノワグマ大量出沒を左右する「鍵植物」の変化

- 仮説へのアプローチ：将来気候条件下における「鍵植物」の分布を予測し、現状の植生分布やクマ生息域と比較する（作業継続中）。
- 結果（一部）：21世紀末のブナの潜在植生域は、RCP2.6、RCP4.5、RCP8.5のすべてのシナリオで現在の潜在植生域よりも縮小する。
- 堅果類の植生域の変化による、ツキノワグマの分布や行動への影響については、有識者へのヒアリングを実施した。結果、各地域の現在の鍵植物が何かを調べる事が重要であること（ブナではない可能性もある）、植生域の変化の他にも影響要因は複数考えられることが分かった。

## 影響分析①②から見えてきた課題



- より精度の高い解析（予測）のためには、より広域における・長期的なデータの蓄積・共有が重要と考えられる。
- さらなる知見の蓄積や、その知見を各県または広域でのツキノワグマ対策（獣害対策）に活かしていくために、いろいろな立場の人同士が、ある共通テーマに沿って話し合い、データを共有できる場が必要と考えられる。

表. ロジスティック回帰により得られた回帰係数及びp値（JANUS作成）

気象要素	係数	p値
日最低気温(°C)	-0.27334	2.00.E-16
相対湿度(%)	-0.02238	6.35.E-06
風速(m/s)	0.39138	1.10.E-07
前日較差(°C)	-0.01077	5.97.E-01
切片	-1.90023	2.26.E-04

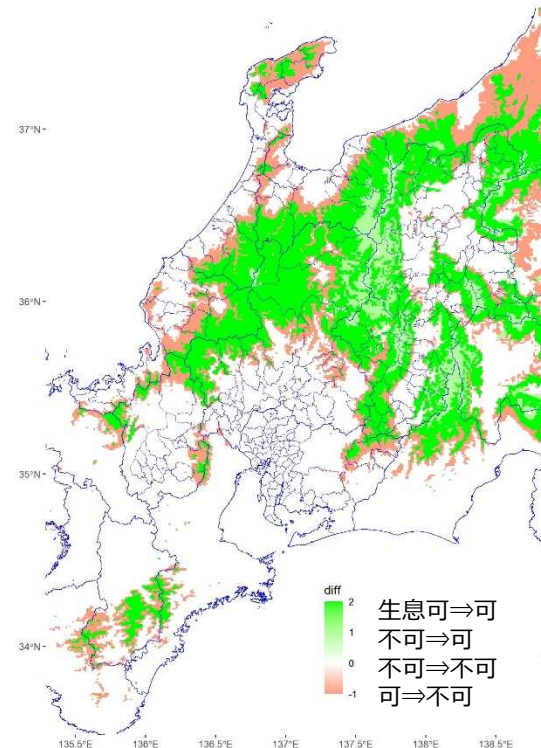


図. 21世紀末のブナの潜在植生域の変化 (RCP2.6 MIROC)  
(環境省S-8よりJANUSが地図作成)

# 自然生態系への影響分科会 ③ 令和3年度調査結果（2）

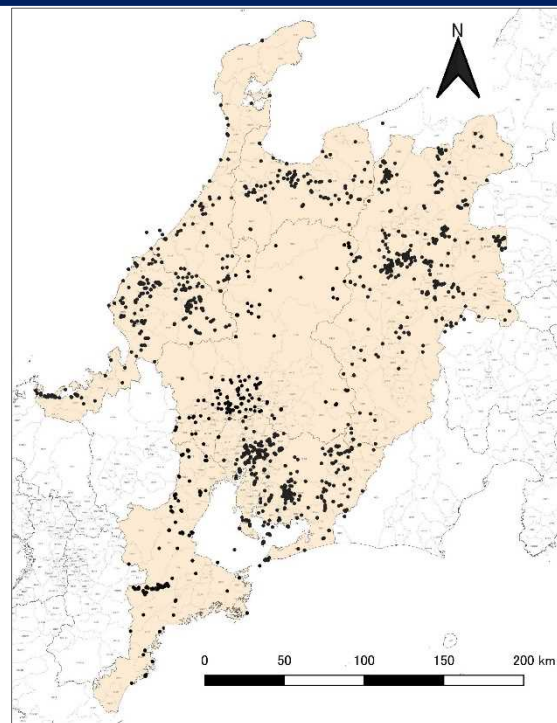
## 市民参加型広域モニタリング調査



：セミに関連する分析

iNaturalistを利用し、市民参加型で中部7県内で観察した生きものの記録を収集した。

- 結果（6月25日～11月30日のデータで集計）。
  - 観察総数：5,994件（うち、セミの観察総数：410件）
  - 観察種数：1,737種（昆虫類44%、植物37%、鳥類4%、その他15%）
  - 観察者数：273名、観察報告数平均値：21件、中央値：2件
  - 観察対象(セミ)：成体（生体または死骸）;60%、鳴き声;23%、抜け殻;14%（ツクツクボウシは、成体;25%、鳴き声;67%、抜け殻;2%）
- 調査を継続し、より多くの情報を収集するには、広報が鍵となる。
- 調査開始前の普及啓発は、観察報告数増加に一定の効果があった。
- 一人で100件以上の観察報告を提供するコアユーザーが存在する。コアユーザーとの関係を深めることは有効と考えられる。



## 想定される適応アクション



共通

- 適応アクションについて、現在、以下のように検討している。
  - 自然生態系への気候変動影響について、現状よりもさらに把握し広域で検討するには、分科会終了後も情報を共有し、広域の適応策について話し合いを続けていける場（仕組み）づくりが重要である。
  - そのためには、2つのプラットフォームづくりが必要である。
    - 「データのプラットフォーム」…共通テーマに沿って、あらゆるデータ（自治体や行政の調査統計、研究者が作成したデータ、市民参加型で収集したデータ、市民や現場従事者の報告のような定性的なデータ等）が、1か所に集まる場
    - 「人のプラットフォーム」…いろいろな立場（例：自治体、地方支分部局、研究者、市民等）にある関係者が、ある共通テーマに沿って話し合える場
- このような考え方にに基づき、令和3年度においては、既存データプラットフォームや既存組織への付加を想定した「データのプラットフォーム」や「人のプラットフォーム」づくりのためのデータの収集・整理、プラットフォームづくりのプロセスについて、第2回分科会で議論した。

図. iNaturalistに報告された観察地点（6月25日～11月30日観察分、生物全体）（iNaturalistの当該調査データよりJANUS作成）

# 自然生態系への影響分科会 ③ 令和3年度調査結果 (3)

## 適応アクション（プラットフォームづくり）の具体案

- 令和3年度、事務局が分科会会合（12月14日）に案を提出し、議論を行った。
- 現在、分科会会合における議論を踏まえ、事務局において修正案（下表）を検討しているところである。
- 今後、さらに課題整理を進めるとともに、よりよいオプションの検討を続ける。

データのプラットフォーム	<ul style="list-style-type: none"> <li>自治体等で実施している生き物調査のデータの共有方法を統一する。             <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 広域で記録を必須にする事項や追加に必要な情報等を検討する。</li> </ul> </li> <li>関連する報告書やデータ目録を集約する。</li> </ul>
人のプラットフォーム	<ul style="list-style-type: none"> <li>情報を共有する場として既存の協議会等を活用する。             <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 会議の場で、共通テーマで集めたデータ（将来的には共通項目を決めて集められたデータ）を見ながら、広域的な課題を議論し、適応策等を検討していく。</li> </ul> </li> <li>主にデータ分析の面で、地域の大学と連携をはかる。</li> </ul>

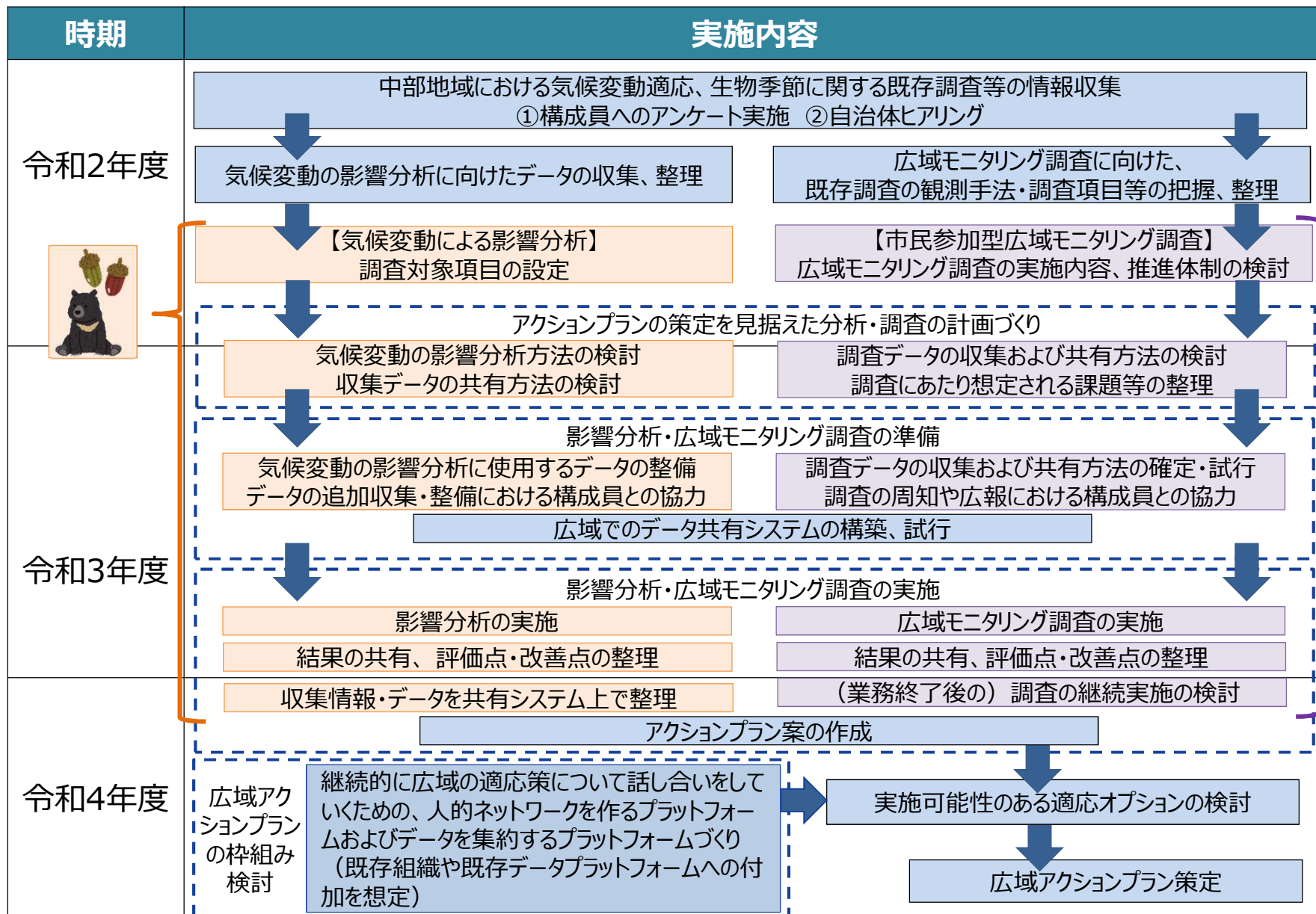
## 令和4年度の検討方針（案）

- 令和4年度における検討方針（案）については、適応アクションの具体案と同様、分科会会合で議論を行い、事務局において検討を行っているものである。
- 今後、分科会会合における議論やプラットフォームの具体案に沿って、追加修正しながら検討を進める。

1.現状把握	<ul style="list-style-type: none"> <li>全国の既存プラットフォームの事例と特徴</li> <li>堅果類やツキノワグマに関する既存調査データの一覧（中部7県）、過去実施された自然生態系分野の市民参加型調査（中部7県）</li> <li>全国の自治体と研究機関、県同士、国と県の連携例</li> <li>今後のプラットフォームのあり方：データがどのような分野で必要になるのか、データが集まるメリット等。</li> </ul>
2.連携候補の絞り込み	<ul style="list-style-type: none"> <li>プラットフォームに求められるもの、求められるものを満たす仕様の整理</li> <li>求められるものや仕様に沿った連携候補の絞り込み             <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 絞り込みの観点の整理（プラットフォームの永続性の高さ、連携候補との目的の近さ等）</li> </ul> </li> </ul>
3.課題把握	<ul style="list-style-type: none"> <li>連携に対して想定される課題の整理</li> <li>連携候補へのヒアリング等</li> </ul>



# 自然生態系への影響分科会 ④ 実施計画（令和2-4年度）



# 自然生態系への影響分科会 ⑤ 実施スケジュール（案）（令和4年度）

## 【令和4年度 スケジュール】

項目	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
広域協議会					▲ 7月～8月 第8回						▲ 1月～2月 第9回	
分科会			▲ 5月～6月 第1回						▲ 10月～1月 第2回			
影響分析・広域モニタリング調査の実施	←→ アクションプラン案の作成											
広域アクションプランの枠組み検討	←→ 人的ネットワークを作るプラットフォームおよびデータを集約するプラットフォームの検討				←→ 実施可能性のある適応オプションの検討		←→ 広域アクションプラン策定					
普及啓発活動、その他											▲ 1～3月 普及啓発活動	

# 流域圏での水資源管理分科会

---

# 流域圏での水資源管理分科会 ① 事業概要

## テーマ：気候変動下における持続可能な流域での水資源管理方法の検討

近年、気候変動の影響で降雨や降雪の時期、量、融雪時期に変化が現れてきており、今後更なる変化が予測される。これに加えて、人口減少や過疎化によって、水源となる森林や農地の管理状況や、土地や水資源の利用状況等においても、将来的な変化が予想される。このため、流域圏全体での水資源の利用状況を把握した上で、気候変動による影響を把握するとともに、気候変動の影響と社会の変化を考慮した効果的な水源や水資源管理方法等を整理し、関係者が連携して実施するアクションプランの策定を目指す。

### <アドバイザー> ※敬称略

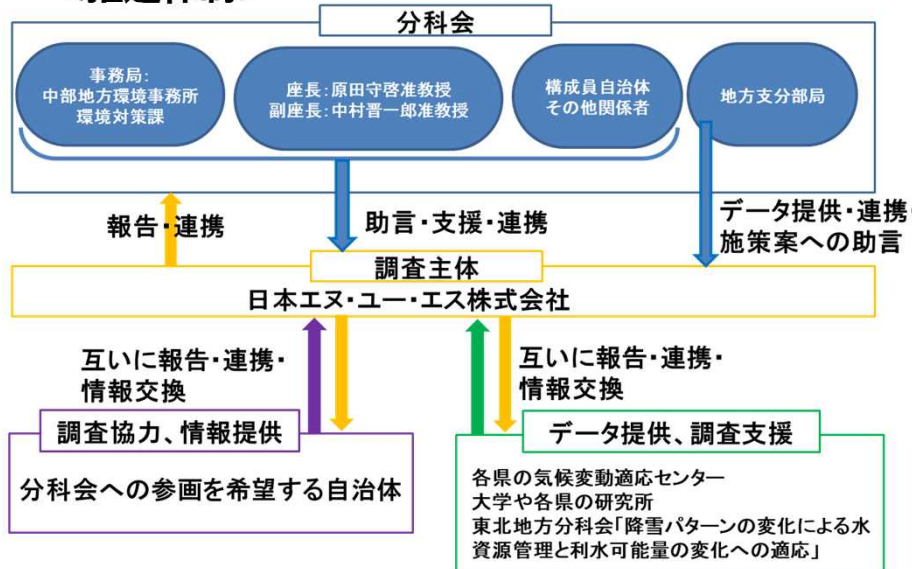
- 座長：岐阜大学 准教授 原田守啓  
 (流域圏科学、河川工学)  
 副座長：名古屋大学 准教授 中村晋一郎  
 (水資源学、水工学)

### <メンバー>

令和4年1月現在

種別	メンバー
地方公共団体	県：富山県、石川県、福井県、岐阜県、 政令指定都市：名古屋市 市町：黒部市、宝達志水町、岐阜市、 岡崎市、みよし市
地域気候変動 適応センター	富山県気候変動適応センター 岐阜県気候変動適応センター
地方支分部局	関東地方整備局、北陸地方整備局、中部地方 整備局、近畿地方整備局、中部運輸局、東京管 区气象台、中部森林管理局、近畿中国森林管 理局

### <推進体制>



### <オブザーバー>

愛知県、水資源機構中部支社

# 流域圏での水資源管理分科会 ② 令和3年度調査結果 (1)

## 中部の主な河川の水の利用状況の整理

- 木曽川および神通川・常願寺川における取水量データを整理し、市町村別・用途別水利用量を得た。
  - 木曽川については水利権に基づいて整理した。
  - 神通川・常願寺川については河川整備基本計画に基づいて整理した（一部暫定値）。
- 用水・組合としての水利権については、主に以下の指標を用いて市町村ごとの水利用量を算出した。
  - 上水道：人口（住民基本台帳）、農業：かんがい面積（用水管理者提供または国土数値情報土地利用より）、工業：粗付加価値額（工業統計調査結果）
  - 地域によっては、対象河川以外の水を利用している場合があるが、これらは整理対象としなかった。
  - 上水道・工業用水における地下水利用については別途整理を行った。

## 可視化方法の検討

- 木曽川および神通川・常願寺川の水の利用状況の整理結果の可視化方法について検討を行い、その結果以下のような可視化を行うこととした。
  - 市町村ごと・利用方法ごとの水利用量（右図）
  - 地下水の利用状況（参考資料）
  - セクター・上中下流ごとの水利用状況（参考資料）

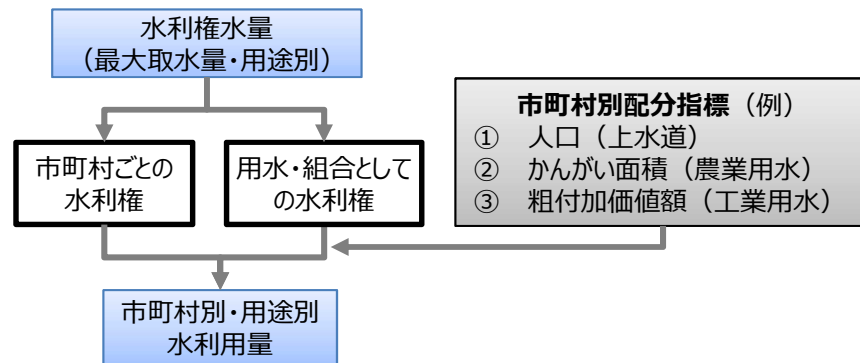


図. 市町村別・用途別水利用量の算出方法

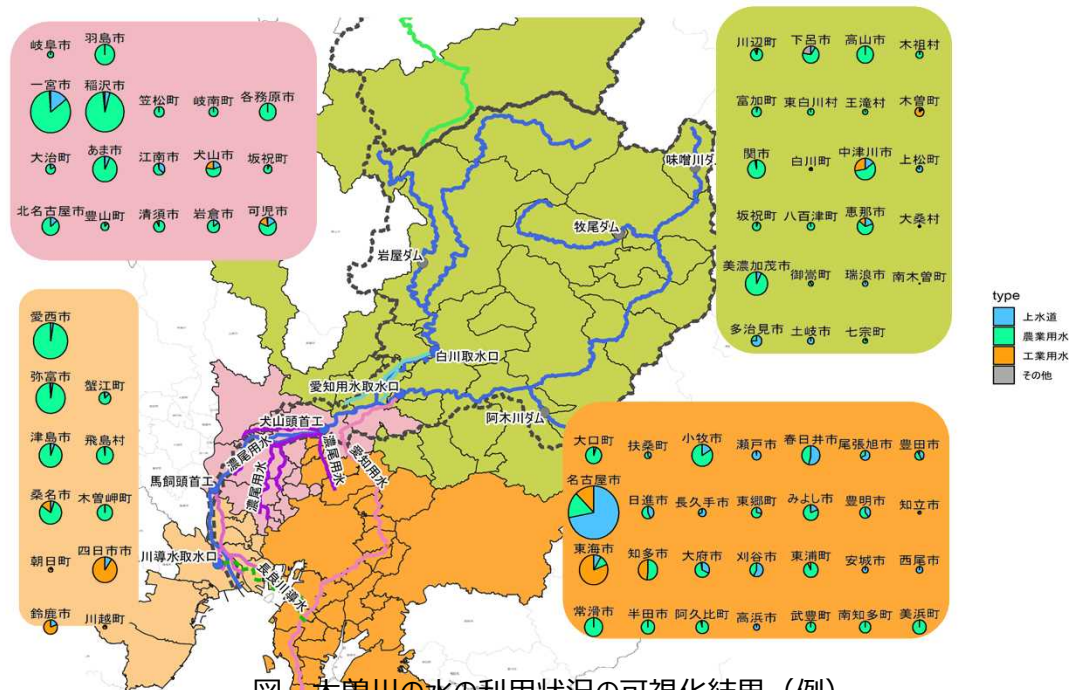


図. 木曽川の水の利用状況の可視化結果 (例)

注1：色付けは木曽川の水を利用している市町村。  
 注2：木曽川と主な支流：青線、主な用水：緑線、集水域：点線  
 注3：自治体毎の水利用量については、日本エヌ・ユー・エス（株）が整理・算出した。

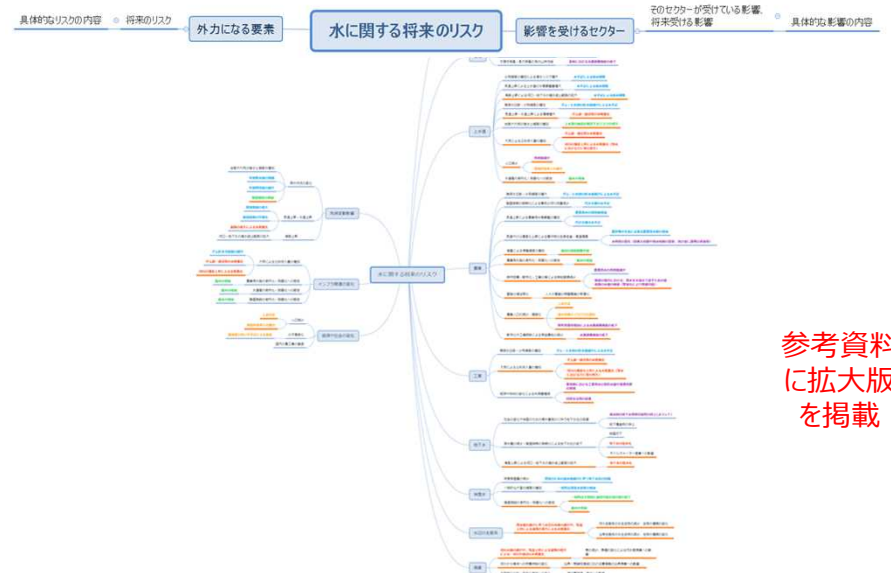
# 流域圏での水資源管理分科会 ③ 令和3年度調査結果（2）

## 中部の水資源における課題の整理

- ランチャタイムセミナー（令和2年度：5回、令和3年度：8回）を通じて、中部地域の水資源における課題についてマインドマップとして整理を進めている。
- 国・県で行われている既存の適応策（潜在的適応策を含む）について、整理中。
- 今後、これら課題と既存の適応策の対応関係を整理し、それによって、新たに必要になる適応策を精査する予定。

## 想定される適応アクション

- 流域圏での水資源管理に関する適応アクションについて、現在以下のように検討中。
  - 水利用に関しては水源から水利用の場までが大変複雑になっているため、どこに・どのような問題点があるか、という**共通理解を関係者間で形成するための冊子を作成**し、誰でもこれらの問題に関する議論に参加できるようにすることが必要である。
  - 水利用については、様々な分野が関わる複雑な問題であるため、**地域行政における研究ニーズと研究機関におけるシーズのマッチングを行うような場**を継続的に設定することが必要である。
- このような考え方にに基づき、令和3年度においては上述のように可視化のためのデータの収集・整理、可視化方法の検討、冊子（骨子案）の作成を行った。
- また、国・県で行われている適応策（潜在的適応策を含む）について、整理を行った。今後、これに基づき、新たに必要な適応策の検討を実施する。

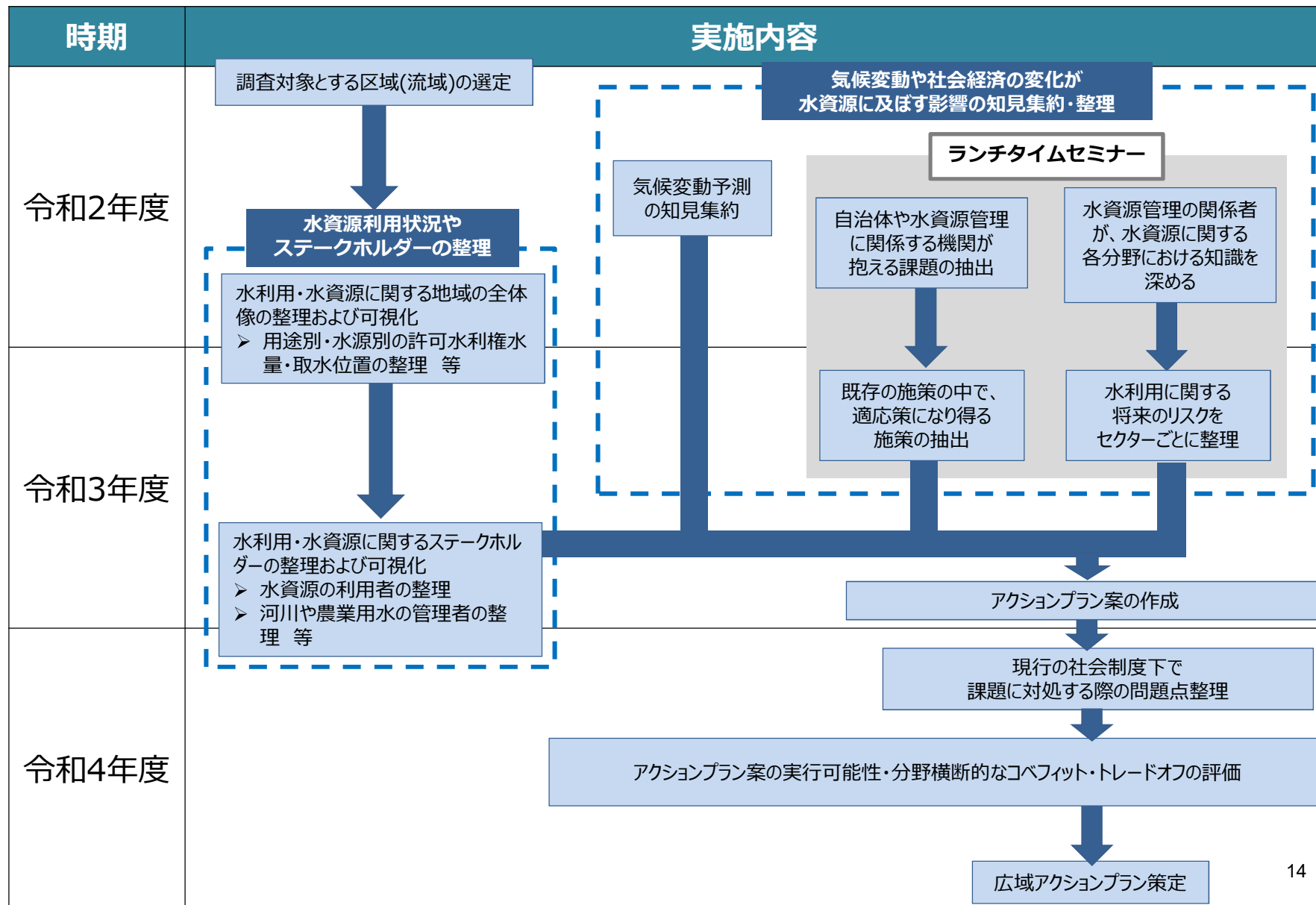


参考資料  
に拡大版  
を掲載

図. 中部地域の水資源における課題の整理結果（例）  
表. 中部地域の水資源に関する冊子（骨子案）

ページ	骨子
1	表紙：タイトルおよびキャッチコピー
2-3	概論：水循環・流域圏，水を介したつながりを知る。
4-5	流域ごとの水利用の特徴と全体像
6-7	神通川・常願寺川流域圏の水利用マップ
8-9	木曽川流域圏の水利用マップ
10-11	中部の水循環のステークホルダー
12-13	中部の水循環への温暖化の影響
14-15	中部における水循環に関する適応策（アクションプラン）
16	用語集、リンク集等

# 流域圏での水資源管理分科会 ④ 実施計画（令和2-4年度）



# 流域圏での水資源管理分科会 ⑤ 実施スケジュール（案）（令和4年度）

## 【令和4年度 スケジュール（案）】

項目	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
広域協議会					▲ 7月～8月 第8回					▲ 1月～2月 第9回		
分科会		▲ 5月～6月 第1回						▲ 11月～12月 第2回				
調査項目① 水資源における課題抽出	← 現行の社会制度で課題に対処する際の問題点抽出 →											
調査項目② アクションプランの策定	← アクションプラン案の実現可能性・分野横断的なコベ ネフィット・トレードオフについて評価 →						← アクションプランの策定 →					
普及啓発活動、その他				← 普及啓発活動 →								



## 地域での脆弱性・リスク分科会

---

# 地域での脆弱性・リスク分科会 ① 事業概要

## テーマ：地域での脆弱性・リスクの総点検を通じた広域連携の推進

都道府県・政令指定都市レベルでは、すでに地域気候変動適応計画の策定が進んでおり、適応に係る既存施策の整理がされつつある。その一方で、県・政令指定都市の気候変動の影響や脆弱性・リスクは分野横断的な視点で必ずしも点検されていない。また、気候変動の影響は、気候変動の影響予測や評価のみではなく、その地域の今後の人口動態や土地利用、生態系サービス、産業、交通、エネルギー等の社会・経済面によっても大きく異なってくる。このような**気候変動の影響と社会・経済的な変化の双方を組み合わせた将来の脆弱性・リスクを把握する指標の整理と可視化**を行う。また、**これらの情報をもとに分野横断的な脆弱性・リスクの抽出を行うための自治体向けワークショップモデルの構築を検討**する。各自治体から出てきた課題の中で、広域で取り組むべきものを抽出・検討し、本事業終了後の分科会テーマとすることを目指す。なお、本分科会においてはアクションプランの策定は行わない。

### <メンバー>

令和4年1月現在

種別	メンバー
地方公共団体	県：富山県、石川県、福井県、長野県、岐阜県、愛知県、三重県 政令指定都市：名古屋市 市町：岐阜市、豊橋市、岡崎市、豊川市、刈谷市、豊田市、知立市、みよし市、長久手市、四日市市
地域気候変動適応センター	信州気候変動適応センター、岐阜県気候変動適応センター、三重県気候変動適応センター
地方支分部局	東京管区気象台
地球温暖化防止活動センター	愛知県地球温暖化防止活動推進センター

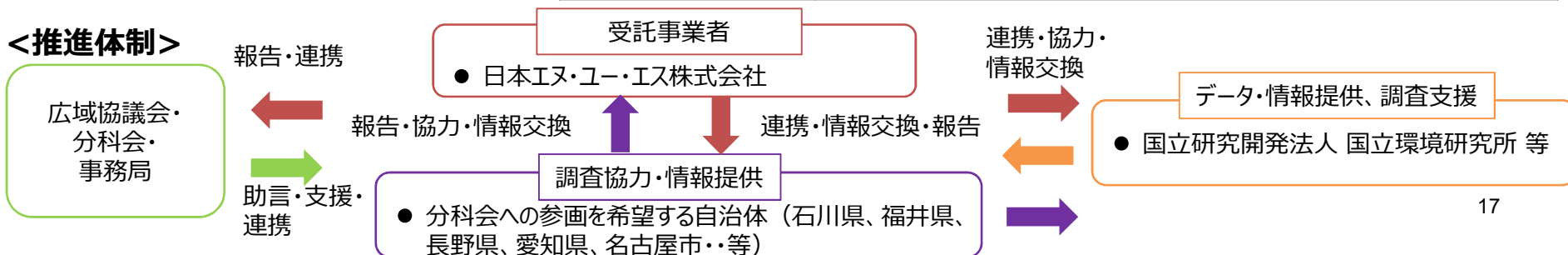
### <アドバイザー> ※敬称略

座長：名古屋大学 特任准教授 杉山 範子  
(環境学、地域気候政策)  
副座長：中部大学 教授 福井 弘道  
(地球環境学、空間情報科学)

### <有識者>

国立環境研究所気候変動適応センター  
主席研究員 大場 真 (生物学、情報学)

### <推進体制>



# 地域での脆弱性・リスク分科会 ② 令和3年度調査結果（1）

## ワークショップモデルの検討

- 地域気候変動適応計画の改定に向けて、気候変動に関する影響や脆弱性・リスクを分野横断的な視点（社会・経済的な視点を含む）で点検し、その結果を用いて、適応計画を見直すことを目的としたワークショップ（以下WSとする）モデルについて検討。
- WSでは、以下のツールを活用し、気候変動に関する影響や脆弱性・リスクなどに関する点検を実施。
  - ✓ リスクマップ：気候変動に関する影響や脆弱性・リスクを空間的に可視化
  - ✓ インパクトチェーン：気候変動に関する影響や脆弱性・リスクの関係を体系化して可視化。

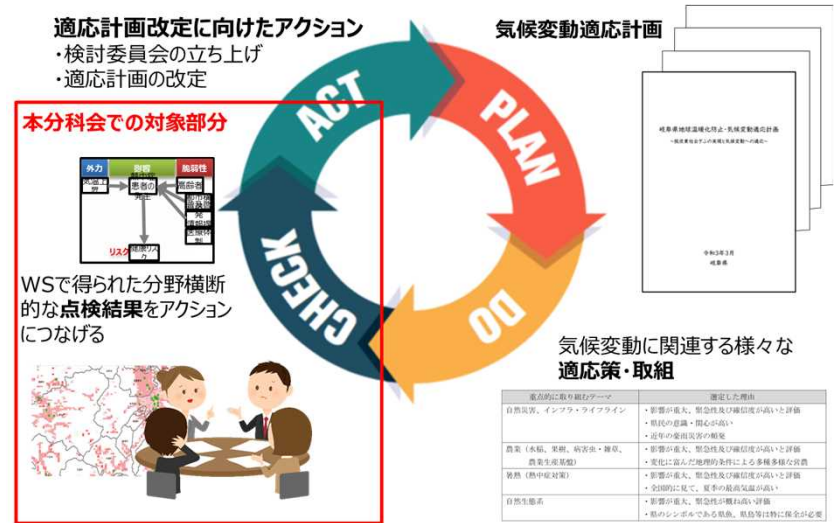


図. ワークショップの位置づけ

## ワークショップの試行

「WSの手引き(案)」を作成し、その妥当性を確認するためのWSの試行を実施。

- 日時** : 令和3年10月28日（木）13:00～17:00
- 実施方法** : WebExによるオンライン（コロナ禍のため）  
分科会メンバー
- 参加者** : （環境部局担当者及び一部適応センターの担当者）  
当日は10名が参加
- ファシリター** : 国立環境研究所 大場先生 戸川先生
- モデル県** : 岐阜県
- テーマ** : 年最大日降水量の増加に伴う中山間地域での災害
- 想定タイムフレーム** : 2050年までの長期的な予測に基づいて、次の適応計画改定のタイミングでの検討を想定

それぞれの区域における自然的・経済的・社会的状況を確認し、地域特有のリスクを抽出する

### プログラム :

- ・講演『気候変動適応のためのリスクアセスメント』  
中部大学 福井 弘道 先生
- ・グループワーク1 「地図を用いてリスクの高い場所を探す」
- ・グループワーク2 「情報整理シートの作成」
- ・グループワーク3 「インパクトチェーンの作成」
- ・グループワーク4 「脆弱性と適応策の関連づけ」
- ・発表および講評

# 地域での脆弱性・リスク分科会 ③ 令和3年度調査結果（2）

## WSの試行

事前準備：気候変動による追加の影響等を考える。

既存の適応計画

外力、影響、脆弱性、リスクを関連づける

GW2：『気候変動の影響一覧表』を作成

GW1：リスクマップの見方、地図の組み合わせによる高リスク地域の探索

GW3：インパクトチェーンを作成

適応計画を基に影響・脆弱性・リスクを記載

モデル自治体の地図を確認しながら高リスク地域を探索GW。議論の中で地域に特有の新たな影響・リスクが抽出された場合、GW2、3に反映

GW4：脆弱性・リスクと既存の適応計画等の諸施策との関係議論・整理

既存の適応策・施策

GW4：追加の適応策について議論

既存の適応策等と脆弱性やリスクの関連を整理、未対応のものについて追加の適応策などを検討

総合討論

チームごとに作成したインパクトチェーンについて、発表・討論

凡例

事前準備

ワークショップで実習

発表／全体討論

事務局で事前に整理

## 来年度のワークショップの実施に向けて

WSを試行後行ったアンケート等より、以下の課題が明らかになった。

- ・ WS参加者の気候変動に関する基礎知識のばらつき。
- ・ 事前準備の難易度（時間の確保）。
- ・ 関連部局が参加しないことによる専門性の偏りや情報の欠如を解消するため、関連部局等の巻き込み方の検討。
- ・ ファシリテーションの難しさ（特に適応に関する知識を持つ人材の確保）
- ・ オンライン特有の難しさ（ワーク作業状況のリアルタイム共有）。

次年度のWSでは、以下を実施予定。

**日程**：2日間

**実施方法**：対面形式

**対象地域**：太平洋側・日本海側など、地域を分けて実施を検討中

**参加者**：関係部局等を含む

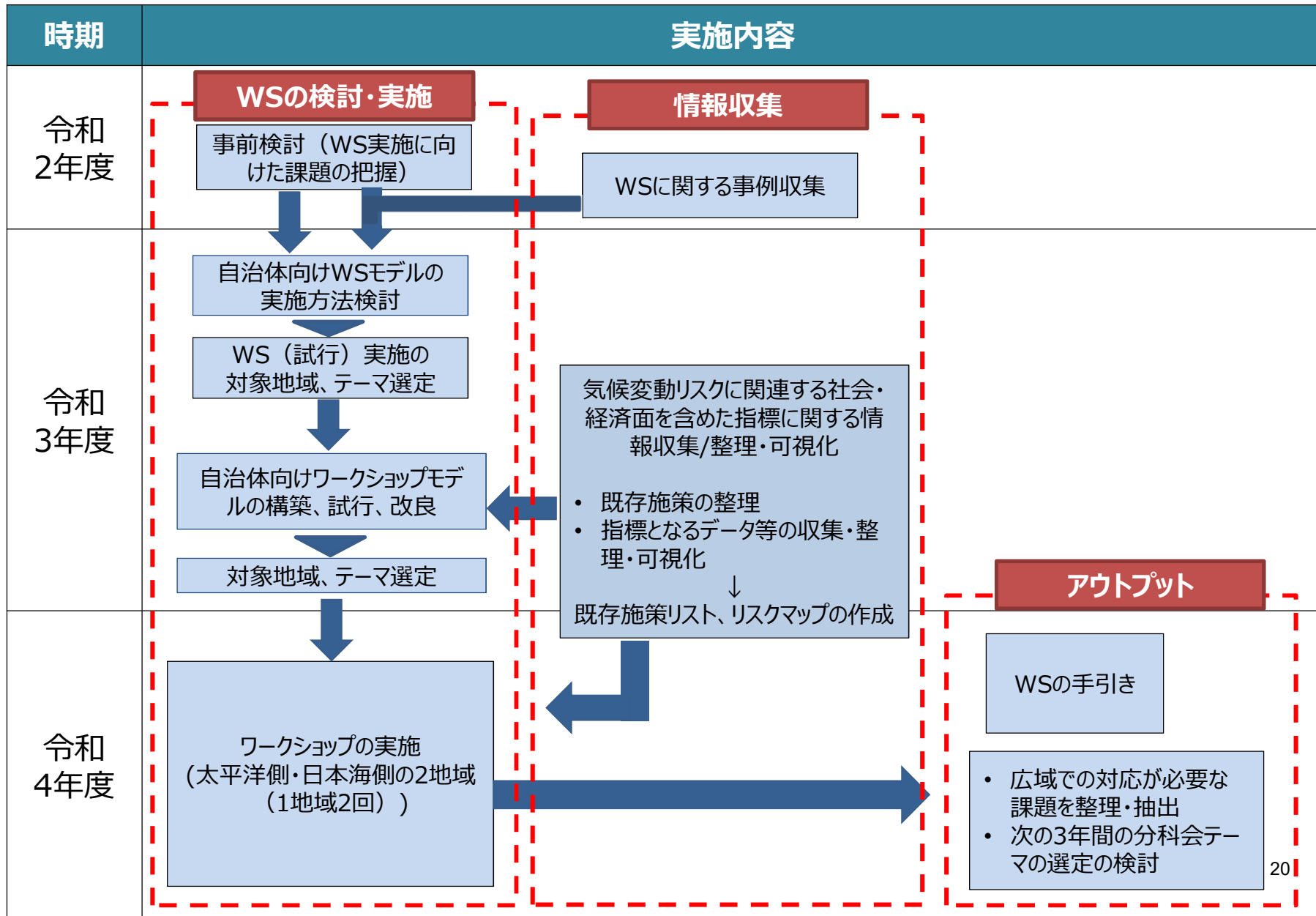
（適応について基礎知識のない参加者に、事前にセミナー等への参加を促したり、基礎的な講演などと組み合わせることを検討予定）

## 想定されるアウトプット

※本分科会においてはアクションプランの策定は行わない。

- ・ 既存の地図情報のみでは分からない地域の社会・経済面を含めたリスクを明確にし、適応策立案に活かせるような**リスクマップの作成**
  - リスク情報の地図上への落とし込み等
- ・ 環境部局が主体となり、ワークショップ実施のノウハウを習得しつつ、自治体のリスク概要を把握するための**WSモデル・手引きの完成**
  - 分野横断的な視点の基づいたインパクトチェーンを作成すると共に、地域独自の脆弱性指標を明確にする

# 地域での脆弱性・リスク分科会 ④ 実施計画（令和2-4年度）



# 地域での脆弱性・リスク分科会 ⑤ 実施スケジュール（案）（令和4年度）

【令和4年度 スケジュール（案）】

項目	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
広域協議会					▲ 7~8月 第8回						▲	
分科会			▲ 5~6月 第1回						▲ 11月~12月 第2回			
アンケート・ヒアリング	←→											
テーマ等の決定、資料等作成		←→										
ワークショップ開催 1回目						←→	▲ 日本海側 ▲ 太平洋側					
ワークショップ開催 2回目							←→	▲ 日本海側 ▲ 太平洋側				
ワークショップモデルの改良・完成									←→			
普及啓発活動、その他										←→		

※ ワークショップは地域別に2~3班程度に分かれて実施する計画である。

# 普及啓発活動

今年度の活動結果（セミナー1）	今年度の活動結果（セミナー2）	今年度の活動予定（研修会）
<p>『『セミ！セミ！セミナー』～夏休み前に、セミの見分け方を学んでみよう！！～』</p> <p>日時：令和3年7月17日（土） 10:00～11:00 会場：Web開催 対象：一般市民（39名参加、0～19歳:18%、30～49歳:35%、50～69歳:35%、他:12%）</p> <p><b>説明1 「生き物の大移住計画ってなに？」</b> （中部地方環境事務所）</p> <p><b>講演1 「セミの世界ののぞき方」</b> （名城大学 研究員 戸田 尚希氏）</p> <p><b>説明2 「『気候変動探偵局～生き物大移住計画を調査せよ！』の参加方法」</b> （日本エヌ・ユー・エス株式会社）</p> <p><b>講演2 「アプリでセミ調べ：みんなの情報でこんなことがわかるよ」</b> （長野県環境保全研究所 堀田 昌伸氏）</p>	<p><b>「水資源ランチタイムセミナー」</b> 日時：令和3年11月～令和4年2月 12:05～12:55 会場：Web開催 対象：自治体職員・研究者など</p> <p><b>第1回 水資源における将来のリスクに関するマインドマップ作成のガイダンス</b> （事務局、岐阜大学教授 原田守啓氏）</p> <p><b>第2-6・8回 水資源に関する各部局への影響に関する話題提供、適応策になり得る施策の抽出方法の説明・事例の紹介</b> （厚生労働省医薬・生活衛生局水道課） （愛知県企業庁水道部） （明治用水土地改良区） （中部森林管理局森林管理所） （富山県） （中部電力）</p> <p><b>第7回 マインドマップ取りまとめ結果共有</b></p>	<p><b>「市町村職員向け 気候変動適応セミナー」</b> 日時：令和4年3月8日（火）（予定） 会場：Web開催対象：市町村職員</p> <p><b>市町村における適応計画策定に資する内容で実施する予定（詳細は検討中）</b></p> <p>&lt;プログラム案&gt; <b>基調講演</b> <b>市町村での気候変動適応策策定事例</b> （2自治体程度） <b>県による市町村支援</b> （県や地域気候変動適応センター）</p>

※来年度のセミナーの対象者・開催場所や、意見交換会のテーマについては、今年度の開催状況を踏まえて検討予定。

## 実施計画（令和2-4年度）

分科会	令和2年度	令和3年度	令和4年度
自然生態系への影響分科会	セミナー：「バッタは悪魔か救世主か？～変化する気候と昆虫たち～」	セミナー：『『セミ！セミ！セミナー』～夏休み前に、セミの見分け方を学んでみよう！！～』	一般向けセミナー
流域圏での水資源管理分科会	ランチタイムセミナー：農業・林業・地下水・地域での合意形成について	ランチタイムセミナー：セクターごとの水利用に関する将来のリスクについて	ランチタイムセミナー
地域での脆弱性・リスク分科会	セミナー：「市町村職員向け適応セミナー」	研修会：「市町村職員向け 気候変動適応セミナー」	セミナーまたは研修会 <sup>22</sup>